

## 全国月間火山概況（平成 27 年 2 月）

御嶽山では、火山活動は引き続き低下してきており、現状では、2014 年 9 月 27 日と同程度、またはそれを上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から概ね 3 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散と火砕流に警戒してください。

桜島では、爆発的噴火が発生するなど活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

口永良部島では、噴火は発生しませんでした。噴煙活動等は継続しており、今後も 2014 年 8 月 3 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。また、火山ガス観測や地殻変動観測によると、今後、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火に移行する可能性もありますので、火山活動の推移を引き続き注意深く見守る必要があります。新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

西之島では、噴火及び溶岩の流出が継続し新たに形成された陸地の拡大が確認されています。24 日に火口周辺警報（入山危険）を切替え、西之島周辺での警戒が必要な範囲を、島の中心から概ね 4 km に縮小しました。西之島の中心から概ね 4 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。

吾妻山では、14 日に火山性微動が発生しました。また、24 日から 25 日にかけて火山性地震が増加し、振幅の大きな地震も発生するなど、火山活動は活発な状態で推移しています。大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、23 日から 24 日にかけて火山性地震が一時的に増加しました。湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められるほか、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山では、中岳第一火口で、連続的な噴火が発生しています。中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、火山性地震が時々発生しています。表面現象に異常は見つかっていませんが、地震活動が継続していますので、えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火が 12 回発生するなど、活発な火山活動が継続しました。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

十勝岳では、水蒸気噴火の兆候は認められなくなったことから、24 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げました。

蔵王山では、11 日に火山性微動が発生しました。登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

3 月 9 日現在の各火山の火山現象に関する警報及び予報の発表状況は表 1 のとおりです。

**表 1 3 月 9 日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況**

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	御嶽山、桜島、口永良部島
	入山危険	西之島*
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、三宅島、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島*、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場*
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、婿島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島鳥、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図1 火山現象に関する警報を発表中の火山

### 【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

#### 十勝岳[噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

←24日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(平常)に引下げ

十勝岳では、山体浅部の膨張がより浅い領域にまで及んでいる可能性があったこと、また、浅部の熱水活動が活発化した可能性があったことから、2014年11月頃から12月頃にかけてごく小規模な水蒸気噴火の発生する可能性が高まりました。その後、これらの活動は次第に低下しました。

このため、水蒸気噴火の兆候は認められなくなったと判断し、24日18時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(平常)に引下げました。

なお、ここ数年、大正火口の噴煙量および地震回数の増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

#### 蔵王山[噴火予報(平常)]

11日に火山性微動が発生しました。火山性微動発生前後の地震活動に変化はみられず、傾斜計でも変化はみられませんでした。火山性地震は7回と、少ない状況で経過しました。

坊平観測点(山頂の南西約5km)の傾斜計では、今期間、南東上がりの変化が続いています。

GNSS<sup>1)</sup>による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられません。

2013年1月以降、火山活動の高まりがみられます。過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

### 吾妻山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

14日に火山性微動が発生しました。浄土平(大穴火口の東南東約1km)の傾斜計では、火山性微動に伴い、一時的に西側(火口方向)が下がる変動がみられ、その後もとの状態に戻りました。

火山性地震は、24日から25日にかけて一時的に増加し、振幅のやや大きな地震も発生しました。今期間の地震回数は165回と、前期間(744回)に比べて減少しましたが、引き続きやや多い状況で経過しています。震源はこれまでと同様に大穴火口直下付近の浅い所と推定されます。

浄土平(大穴火口の東南東約1km)の傾斜計では、2014年4月以降、緩やかな西側上がり傾向で経過していますが、1月26日以降はその傾向が強まっています。

浄土平の火口カメラ(東北地方整備局設置)では、5日にこれまで噴気がみられなかった領域から噴気が上がっていることを確認するなど、大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2014年9月頃から一切経山南山腹観測点(大穴火口の北約500m)が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆すると考えられます。

大穴火口から概ね500mの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

### 草津白根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていましたが、8月20日以降やや少ない状態で経過しています。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。また、全磁力観測による5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7月以降停滞しています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

### 御嶽山[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

御嶽山では、火山活動が低下してきており、2014年9月27日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっています。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上100~700mの高さで経過しています。

山麓で実施した現地観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり約100~300トンでやや少ない状態が続いています。

火山性地震は14日に一時的に増加しましたが、その他の期間は少ない状態で経過しています。2014年8月以前の状況には戻っていません。

剣ヶ峰山頂の南東約3kmに設置している傾斜計では、今期間特段の変化は認められません。また、GNSS<sup>1)</sup>連続観測では火山活動によるとみられる特段の変化は認められていませんが、国土地理院のGNSSデータの解析によると、長期的には9月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられ、12月までに9月上旬頃の基線長に戻っています。

御嶽山では、火口から3km程度の範囲で大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

### 三宅島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっています。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞しています。島の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。

火口周辺(雄山環状線内側)に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴

煙活動は続いており火口近傍に火山灰等が噴出する可能性はあります。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒してください。

## 西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]

### ←24日に火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報を切替え

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

23日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第7火口で間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が継続していました。噴煙は白色から灰色で、高さ約1,200mに達していました。また、溶岩流は島の東側に流出しており、新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,960m、南北方向は約1,800m、面積は約2.45km<sup>2</sup>(前回2014年12月25日:2.29km<sup>2</sup>)でした。

黄緑色から褐色の変色水が、西之島の南側を除く海岸線付近と北東方向へ幅約700m、長さ約1,000m及び南東方向へ幅約1,000m、長さ1,500mに分布しているのが確認されました。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがあります。

文献調査により、一般に、海上まで影響が及ぶ海底噴火は概ね水深400m以浅の場合に限られ、うち水深数十m以浅の噴火の際にベースサージを伴う場合があることがわかりました。これらのことから、24日18時00分に火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報を切り替え、西之島周辺での警戒が必要な範囲を、島の中心から概ね4kmに縮小しました。西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

## 硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。13日から14日にかけて一時的に火山性地震が増加しましたが、その後減少しています。火山性微動は時々発生しましたが、その他の観測データに異常は認められませんでした。

海上自衛隊の協力により、16日から19日にかけて現地調査を実施しました。ミリオンダラーホール(旧噴火口)では、前回(2015年1月)の観測に比べて、噴出孔内及びその周辺の地形に顕著な変化は認められず、噴気は観測されませんでした。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し2015年1月中旬頃から、隆起速度が上がっていましたが、2月上旬頃から停滞しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

## 福德岡ノ場[噴火警報(周辺海域)及び火山現象に関する海上警報]

17日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測及び15日と18日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められていません。

福德岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

## 阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

中岳第一火口では、連続的な噴火が発生しています。3日と26日には、灰色の噴煙が火口縁上1,000mまで上がりました。中岳第一火口の連続的な噴火に伴い、熊本県、大分県、宮崎県の一部の地域で降灰があったと推定されます。熊本大学教育学部が実施している降灰観測によると、2014年11月25日の噴火開始から2015年2月2日までに噴出した火山灰の総量は約150万トンに達していることが分かり

ました。

9日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,500トン（1月：2,500～2,600トン）と多い状態で経過しました。

火山性微動は、依然として振幅の大きな状態が継続しています。また、噴火に伴う空振を時々観測しています。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が1kmを超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

### **霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

新燃岳火口直下を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

GNSS<sup>1)</sup>観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

### **霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[火口周辺警報（火口周辺危険）]**

えびの高原（硫黄山）周辺では、引き続き火山性地震が時々発生しています。2日13時55分に硫黄山付近の海拔下2kmを震源とするマグニチュード1.2の地震が発生し、3日から6日頃にかけて、韓国岳北東観測点の傾斜計で、北西方向がわずかに隆起する変動が観測されました。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の伸びの傾向が続いています。

えびの高原（硫黄山）周辺では、表面現象に異常は見つかっていませんが、地震活動が継続していますので、今後の推移に注意する必要があります。また、噴気や火山ガスなどが突然噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性があります。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降る恐れがあるため注意してください。

### **桜島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]**

昭和火口では、爆発的噴火が88回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。

21日00時53分と22日22時52分の爆発的噴火では、大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達しました。噴煙の高さの最高は、21日00時53分の爆発的噴火による火口縁上3,500mでした。南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

9日と27日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,600トン～2,800トン（1月2,300トン～5,000トン）と、概ね多い状況でした。

桜島島内の傾斜計、伸縮計及びGNSSでは、2015年1月以降、山体が隆起・膨張する変化が観測されています。今後さらに多量の火山灰が噴出する可能性があります。また、始良カルデラ深部では長期的に膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

### **口永良部島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]**

口永良部島では噴火は発生しませんでした。火山性地震が時々発生し、火山ガスは多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過しています。

14日及び26日から28日に実施した現地調査では、引き続き新岳火口の西側割れ目付近及び南西斜面で噴気を確認しました。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側、西側割れ目付近及び南西

斜面の噴気地帯で熱異常域を引き続き確認しましたが、おおきな変化は認められませんでした。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が1日、2日、3日、6日、28日に、福岡管区気象台が14日及び28日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の一日あたりの放出量は、400～2,700トン（2015年1月：1,100～3,100トン）と、概ね多い状態で経過しました。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

#### **諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

御岳火口では、爆発的噴火が12回発生したほか、噴火も時々発生しました。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で、火口縁上1,500mまで上がりました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、26日に切石港（御岳の南約3.5km）で降灰が確認されました。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は活火山総覧（第4版）による）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成27年3月9日現在）

(1) 主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年9月29日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日噴火予報（平常） 2008年11月17日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年12月16日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年2月24日噴火予報（レベル1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年6月9日噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	東北地方	岩木山	噴火予報（平常）
秋田焼山		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年7月25日噴火予報（レベル1、平常）
岩手山		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
秋田駒ヶ岳		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年10月27日噴火予報（レベル1、平常）
鳥海山		噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
栗駒山		噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
蔵王山		噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
吾妻山		火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月12日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
安達太良山		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
磐梯山		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	浅間山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日噴火予報（レベル1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報（レベル3、入山規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2014年9月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年9月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年1月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	西之島	火口周辺警報（入山危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年11月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年6月3日火口周辺警報（入山危険） 2014年6月11日火口周辺警報（入山危険）切替 2015年2月24日火口周辺警報（入山危険）切替
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2011年5月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年6月20日噴火予報（レベル1、平常） 2013年9月25日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2013年10月11日噴火予報（レベル1、平常） 2013年12月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2014年3月12日噴火予報（レベル1、平常） 2014年8月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月29日噴火予報（レベル1、平常） 2010年3月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月16日噴火予報（レベル1、平常） 2010年5月6日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年1月26日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2011年1月31日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年3月22日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年6月26日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2013年10月22日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2014年10月24日火口周辺警報（火口周辺危険）
	桜島	火口周辺警報（レベル3、入山規制）	2007年12月1日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月2日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月19日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年3月2日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月10日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月24日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年7月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2010年9月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	桜島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2010年10月13日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 切替 2012年3月21日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 切替
	薩摩硫黄島	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報 (レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報 (レベル1、平常)
	口永良部島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報 (レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報 (レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報 (レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報 (レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 切替
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

## (2) その他の活火山

以下の活火山(\*印を除く)では平成19年12月1日に噴火予報(平常)を発表しました。また、\*印の活火山では、活火山として選定された平成23年6月7日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山